



学校だより



青梅市立東小中学校
令和2年度 第11号
2月15日(月)

爽(さわ)やかだった 寮対抗駅伝大会

皆さんのベストを尽くす姿に嬉しさ一杯！

校長 川窪 公夫

1月26日(火)、好天の下、学園の伝統行事である寮対抗駅伝大会が行われました。私にとっては初めて目にする駅伝大会なので、どのような雰囲気で行われるのか楽しみにしていました。開会式では、園長先生から、一生懸命に練習に取り組んできた子ども達へねぎらいの言葉が送られるとともに運営する先生方に感謝の心を伝えていただきました。その後、男女それぞれを代表して中学3年生の二人が「我々選手一同は、日頃の練習の成果を十分に発揮し、自己ベストを更新できるよう力の限り精一杯走ることを誓います。」と元気よく選手宣誓を行ってくれました。駅伝の部・個人の部ともに、全寮の小学4年生から高等部1年生まで、男女の区別なく、どの子も等しく1.6kmを走ります。昨年11月頃から、寮毎に練習日や練習メニューを決め、チーム〇寮として、優勝目指し、お互いに励まし合いながら大会を迎えたと思います。当日は、これまでに築き上げた団結力を至る所で感じることができました。仲間に声援を送り、ゴール前では、伴走する姿が見られ、全力を尽くす走りと呼援する光景を目の当たりにして、心から嬉しく思いました。さらに、寮の先生方の気合いの入った応援にも圧倒されました。また、放送を通じて、選手一人一人のコメントを紹介し、心を込めてエールを贈るアナウンスも大会を大いに盛り上げました。寮の先生チームと教員チームもオープン参加で加わり、子ども達に対抗し頑張りましたが、結果は気にしないでください。「参加することに意義あり」です。お疲れ様でした。駅伝大会という勝負ごとですから、勝ち負けはつきます。



開会式 声高らかに選手宣誓



女子個人の部 スタート



男子駅伝の部 スタート

優勝して、嬉しい寮もあれば、悔しい寮もあったと思います。途中で抜かされて泣きたくなったり、心が折れそうになった人もいたでしょう。しかし、凄い！ことは、全員が完走したこと。そして、誰もが、選手宣誓にあった通り、「自己ベストの更新を目指して、全力で走り切ったこと」です。私は、それが今回の駅伝大会の一番の結果だと皆さんの爽やかな顔を見て、心から思いました。開会式から閉会式にいたるまで、立派な態度で大会に臨んでいた皆さんを誇りに思いました。最後に運営された多くの先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。



沿道での応援風景

タスキをつなぐ



林道を行く



閉会式での表彰

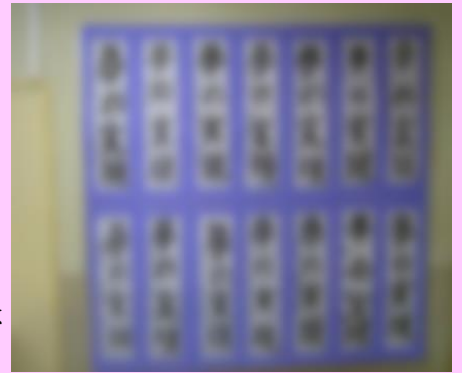


＜今回の駅伝大会に寄せていただいた2名の先生の声を紹介します＞

- 自分の寮がゴールした後も他寮を応援している子どももいて、とても良い雰囲気でした。
- 今年度、コロナの影響で多くの行事がカットされた中であって、開催できて良かったです。練習を積み重ねていく中で苦しさ、逃げ出したい気持ちなど自分との葛藤(かっとう＝自分の心と戦うこと)を乗り越えて、本番を迎えるという経験を通して、子ども達が着実に成長したという手応えを感じます。翌日の日記にも皆とても前向きで自信に満ちた気持ちがかかれており改めて感動しました。また、担当の先生方が駅伝大会を無事故で運営するために細かなところまで目配り、気配りをしていただいたことに感謝いたします。

＜小学生の書写がすごい！＞

秋の作品展でも見ましたが、小学生の書写がとても上手でいつも驚いています。指導されている菅沼先生は「一枚書き上げると、よく書けたところ、そうでないところが分かります。練習を重ね、自分の課題が“できた”と実感する瞬間を増やしていこうと頑張ってきました。教室がシーンと静かな時、どの子もしっかり自分と向き合っていることが伝わってきます。」と語られています。これからも皆さんが集中の高さを生かし、書写に取り組んでくれることを期待します。



社会性を学び、身に付ける → 「ものづくり」

小学校では、「おしゃれ村」と名付けた農園で「総合的な学習の時間」＝(以下、総合学習)を使い田畑と触れ合っていますが、中学校の自立の時間でも「ものづくり」と題して、農業体験を行っています。冬野菜の収穫を終えたこの時期は、春の訪れを待ちながら、たい肥づくりを中心に活動しています。落ち葉だけでなく、枝も丁寧に細断し腐葉土にしています。地道な取り組みですが、生徒たちはわき目も振らずに黙々と作業に精を出しています。また、ナラの原木にしいたけ菌を差し込み、しいたけ栽培も行っています。今年は4月・5月の臨時休校もあり、季節物である野菜づくりの日程が変更になるなど厳しい状況で「ものづくり」がスタートしましたが、暑い日も寒い日も、生徒たちは土に親しみ、命を繫(つな)ぐ作物を丹精(たんせい＝こころを込めて物事をする)こめて育ててきました。この学びの中心を担う福祉担当の森先生は、「ものづくり」の時間の目的は、働くことの基本・人の話や指示を聞いて動けること・自然を相手にするということを知ることだと語っています。また、気持ちの良い挨拶や聞こえる返事・丁寧な言葉遣いなど、作業に取り組む姿勢から、生徒達のその日の調子がよく分かるそうです。これからも貴重な農業体験を積み、自然に感謝する心を育てていきたいと思ひます。



腐葉土づくり



しいたけ栽培の原木